

まち活5 つうしん

ねりままちづくりセンター

取材/2009年10月18日

——上石神井駅南口を出て5分ほどのところにある千川上水緑道。地域住民が主体となり、行政・専門家と一っしょに緑道の整備のあり方を検討して、早くも3年が経ちました。「千川上水プロムナード構想」としてまとめた提案を、今年度は実現すべく活動をしています。「現存の樹木を最大限に活かすには？」提案のポイントとなる街路樹について、センタースタッフでもあり、樹木医の石井がイベントに参加しました。

千川緑道の記憶をつなごう

夏の暑い一日、上石神井体育館前に、参加者全員が集合しました。

今日の目的は、千川上水緑道の移植樹木の観察と、その後の活用について、行政に提言できるように、まとめあげること。「緑道の記憶をつなぐため木々たちの移植イメージをみんなで考えよう!」と題し、約1時間かけて緑道内を探索した後、上石神井地域集

会所に集まって検討会を開きます。

ふたつの提案を吟味する

散策中、目に留まったのは、大きくなるケヤキやサクラがあるということ。そして、モミジやシラカシが多い印象も受けました。参加者それぞれが散策中に感じた緑道の印象や、樹木の性質・形状について、意見交換を行った





後、まっぶすからは、移植後の千川上水緑道の形状について二つの提案が出されました。一つは、千川上水プロムナード構想ともいべきラインを強調し、街路樹状に樹木を並べた計画案。もう一つは、サクラを中心に広場的空間をつくり構成する計画案です。どちらも、千川上水緑道を愛する想いのあるなかで、計画案の検討が始まりました。

樹木医の視点で見ると…

街路樹状に並べた案では、適度な間隔

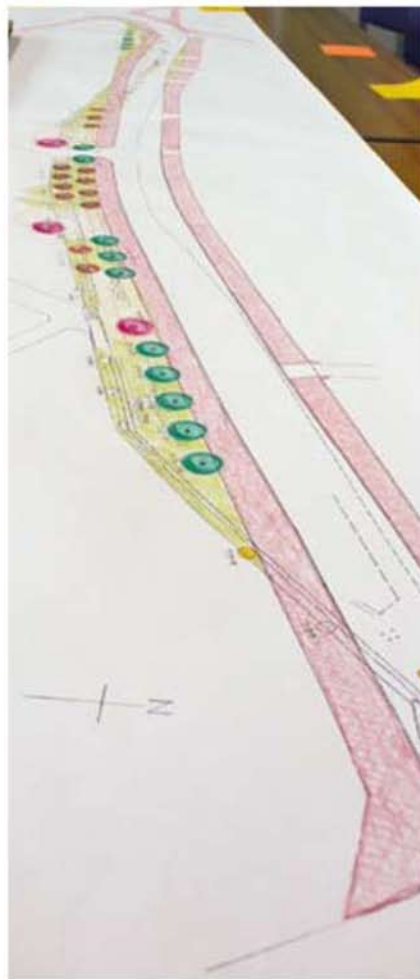
▶樹木移植の現場。黒く肥えた土は60cmほど掘ると茶色くなる。これぞ関東ローム層。

に樹木が並べられ、10年は剪定しなくてもよいかと思われる案でした。サクラを中心とした案は、使い方次第で緑道の活性化を図ることができるのでは、と思わせる案です。熱心な話し合いの結果、サクラ中心案が支持をされましたが、今後、具体的な整備の話を行政と進める中で、計画案が絞られることになるでしょう。

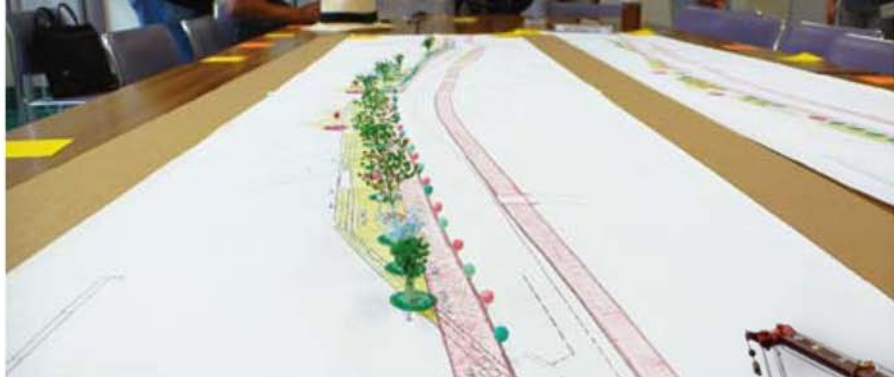
汗だくの検討会は、無事夕方終了しました。

その後のお話 (練馬区公園緑地課より)

検討会で支持されたサクラ中心案は緑道としての機能だけでなく、広場として活用できる魅力のあるものでしたが、移植樹木の植栽間隔および民有地との距離が確保でき、より健全な育成管理が可能である街路樹状に並べた案を基本に東京都と協議することとさせていただきます。



▲街路樹状に並べた案



▲サクラを中心とした案

提案が、いよいよ 目に見える作業に入った!

1月の末日、底冷えの朝。千川緑道では、夏に検討した内容を行政と調整して、いよいよ樹木を移植する時期に入っていました。しきりに写真を撮るメンバーの久村さん。「長年話し合いを重ねて進めた提案が、目に見えるカタチで実現しています。この場面を記録して公開するのです。」提案が実現に向かって動き出したことを象徴するこの現場は、きっとメンバーにとっても感慨深いもの。この後、29本の樹木が、伐採されることなく、次々と移植されていきます。「プロムナードのちょうど真ん中あたりの入り口では『ゲートツリー』という2本の木がお出迎えします。一本は、『サイカチ』という木。めずらしい木だからぜひ残したいとお願いしたら、伐採せず移植することになったんです」プロムナード構想の対象区域を、様々なエピソードとともに案内していただきました。「継続は力なり」。まっぶすのふつつつと湧く熱さを垣間見た気がしました。

▶エノキを掘り起こすと、根っこがまあるく弧をかいていた。



団体さん、今日を振り返る。 活動メンバー久村さんのお話

この緑道は地域の憩いの道として永く利用されてきましたが、一方で住宅の裏側を通るために夜などは少し不気味なところでした。ある日沿道の住宅にあった桜の大木が花をつけたまま伐採されているのをメンバーが見つけたのがこのテーマに関わるきっかけでした。用地買収が進み道路拡幅事業が目に見えるようになってくる中、歩道と緑道の一体的な環境整備のあり方を住民の視点で検討し提案したいと考えました。行政の担当の方たちも快く話し合いに応じてくれ、実施案をつくるにあたり私たちの提案も検討対象にしてくれたことは幸いでした。



近隣の方も工事現場を見守っています

活動団体基本データ

設立

2004年7月

活動テーマ

千川通り拡幅事業に伴う歩道と緑道の一体的な整備のあり方について、イベントや住民・都・区・専門家との意見交換会を実施し、「千川上水プロムナード構想」を提案。より魅力的な空間をつくりあげようと活動している。

活動実績

- ・まちづくり活動助成事業「たまご部門」の助成を得て、上石神井駅周辺まちづくり調査・研究を実施(2007)
- ・同事業「はばたき部門」の助成を得て、「千川上水プロムナード構想」を提案(2008-2009)

ホームページ

maps-senkawa.blogspot.com

団体連絡先

kathis@ktj.biglobe.ne.jp

団体拠点案内



活動場所

千川上水緑道
(関町南1-12)

練馬まちづくりセンター

発行日

取材/編集 練馬まちづくりセンター

デザイン 濱祐斗 山口真生

発行元 (財)練馬区都市整備公社 練馬まちづくりセンター

練馬区豊玉北5-29-8 練馬センタービル 3階

Tel 03-3993-6451 Fax 03-3993-8070

Email machi@nerimachi.jp Web http://nerimachi.jp

練馬まちづくりセンターは、練馬区民が住み続けたいと思えるような美しい地域環境と豊かな地域社会を実現するために、区民の主体的なまちづくり活動を支援するとともに、区民・事業者・行政から独立し連携を図る、中間的な立場から協働型まちづくり事業を実施する組織です。

これからの展望

千川上水プロムナード構想、 10の提案の実現に向けて

3、4年話し合ってきたことが、実現に向かって動き出しています。もちろん提案したものがすべて受け入れられた訳ではありませんが、自転車道を取り入れる案など、地域住民と意見を出し合いながらまとめた提案が採用されることもありました。

今後、その他の提案を実現するためにも、住民、行政との連携もとっていききたいと思います。

今後こんなグループとつながりたい!

野草の会/東京建築士会練馬支部景観部会

活動メンバー紹介

久村 克彦 さん



樹木移植現場を、撮影すること3時間。「ちょっとお昼に眼をとって、また午後も撮影します」と一言。淡々としているけれど熱い方!?

中村 仁 さん



現地イベントを、遠巻きに見ている人に、さりげなく声をかけるのが上手い。活動を、より住民に向けて発信していこうと、実践されています。

他にもたくさんの方がいらっしゃいます!
是非活動をのぞいてみてくださいね。

練馬まちづくりセンターは“まちづくり活動助成事業”で、まっぶすを応援しています。

まちづくり活動助成事業とは、区民が住み続けたいと思えるような美しい地域環境と豊かな地域社会を実現するために取り組む、区民主体のまちづくり活動への支援を目的としています。



【はばたき部門】助成金額30万円以内

身近な生活空間の保全改善等のために取り組むまちづくり活動への助成



【テーマ部門】助成金額1年目10万円以内 2年目50万円以内

身近な場所で生き物と呼ぶ空間をみんなで楽しみながら創り出す活動への助成



【たまご部門】助成金額3万円以内(年中受付しています)

上記2つの部門の様なまちづくり活動を始める、きっかけづくりや学習会などを開催するための助成